

「任せる＝自分で考える」絶好の機会！

神石小学校長 田丸 栄

5月の連休が明け、暦の上では夏が来たというのに、朝晩は肌寒い日が続いています。そのような中、子供たちは19日(日)の運動会に向けて、練習の段階から、一生懸命に自分の力を出し切り、目標をもって努力しているところです。

さて、その運動会に向けて、児童会は、「静かに集合すること」を目標として、全校児童に呼びかけをしました。一つのことをするとき、何かと関係させて(ここでは、運動会という行事と関連させて)取組をすすめようと考えてくれました。4月から子供たちに「任せた」成果が、ここに表れており、大変うれしく思っています。これらの取組も含め、子供たちが決定したことを一つ一つ肯定的に受け止め評価しながら、子供たちに自信をもたせられるような1年にしたいと4月のPTA総会でも話をさせていただいたところです。その際に次のようなこともお話をしましたので、紹介をさせていただきます。

『たとえば、宿題のことで話します。宿題は、あくまで学校の先生が出す【めやす】の家庭での学習です。絶対しなくちゃいけないよ。というものでは本来ないんです。人によっては、違う勉強をしてきてもいいですし、時にはできないこともありますね。それを、先生が、「できていない」からといって、「絶対にやらす」というものではないんです。自分で「やっていかなくてはいけない。」と思ったり、「もっと考えてこんな勉強をしていこう」と考えたりすることが大事なのではないでしょうか。でも、小学校段階では、なかなかそれも難しい年代なので、【めやす】としての宿題を出しています。こんなこともあります。漢字の宿題が出たけど、漢字ノートをもって帰っていない。そんな時どうするかです。先ほどお話ししたように、宿題はあくまで【めやす】です。漢字の宿題が出ていれば、「漢字はやった方がいいのかな」と考えて別のノートに国語の教科書を見ながら漢字を書いてもよいのではないのでしょうか。このように、子供たちが考えられる、大人は考えさせる、そんなことが学校や家庭・地域が一体となってできたらと思っています。ぜひ、よろしくお願いいたします。』